

# 在宅医療及び小規模医療機関における安全適正な 輸血医療体制整備と均てん化の取り組み

末岡榮三朗<sup>1)</sup>、松山博之<sup>1)</sup>、福島伯泰<sup>1)</sup>、飯野忠史<sup>1)</sup>、冨栴りか<sup>1)</sup>、  
阿比留正剛<sup>1)</sup>、有尾啓介<sup>1)</sup>、園田英人<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>佐賀県合同輸血療法委員会



# COI 開示

筆頭発表者名：末岡榮三郎

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業など

- ①顧問：なし
- ②株保有・利益：なし
- ③特許使用料：なし
- ④講演料：なし
- ⑤原稿料：なし
- ⑥受託研究・共同研究費：なし
- ⑦奨学寄付金：なし
- ⑧寄附講座所属：なし
- ⑨贈答品などの報酬：なし

# 佐賀県合同輸血療法委員会の活動

## 2010年度に活動を開始

当初の目的

佐賀県内の輸血医療実施施設に輸血療法委員会を設置  
佐賀県における輸血医療の実態把握



輸血医療の均てん化

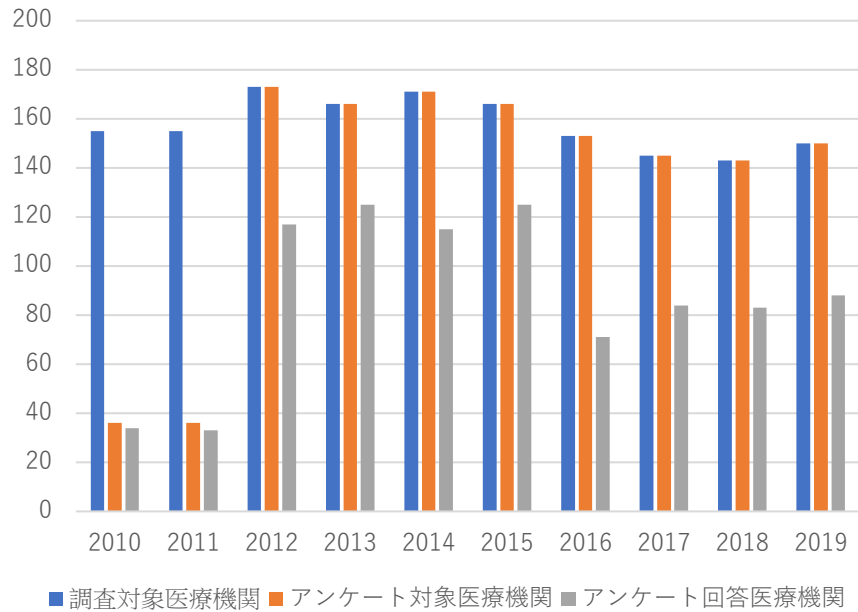
九州地区の合同輸血療法委員会との連携

小規模施設の輸血医療に関する支援対策

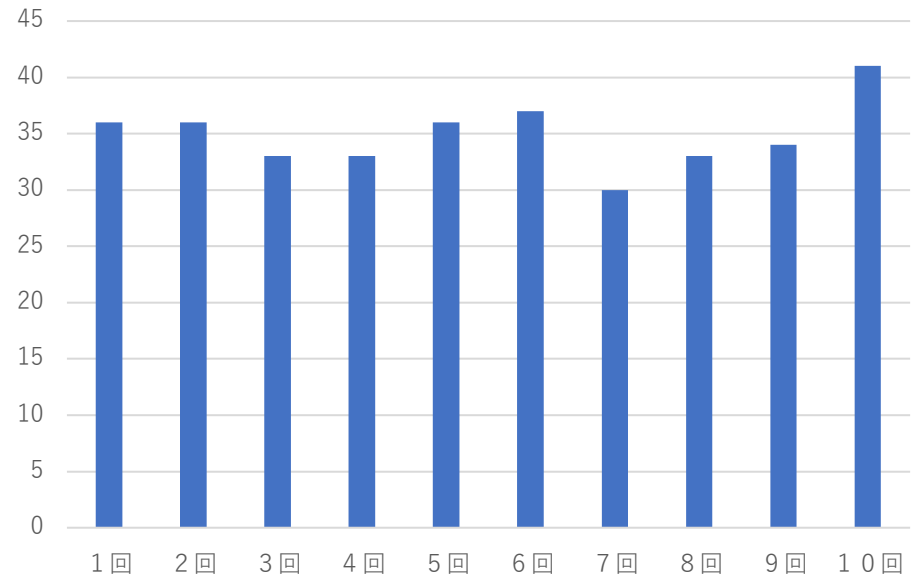
輸血医療教育体制整備



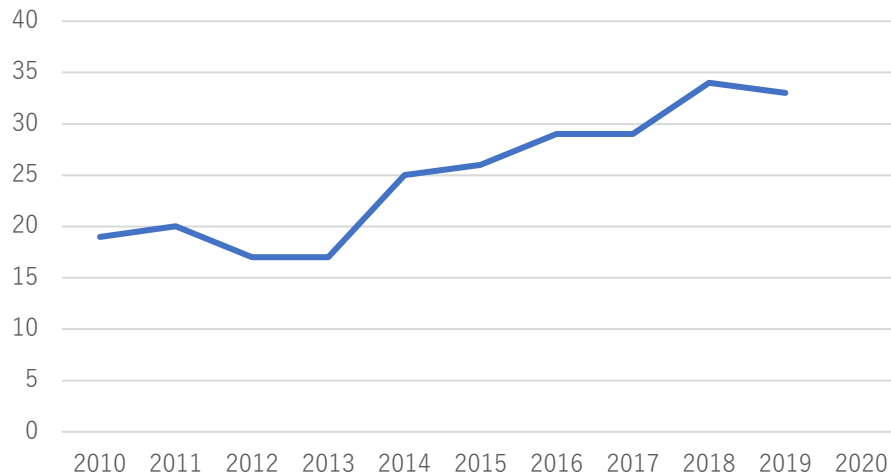
## 参加医療機関の推移



## 院内輸血療法委員会設置数



## アンケートの質問項目数



# 最近の佐賀県合同輸血療法委員会研修会

= 第12回 佐賀県合同輸血療法委員会 =

日時：令和4年1月29日（土） 14：30～17：30

開催形態：オンライン開催（Microsoft Teams）

14:30

## 【開会・開会挨拶】

佐賀県合同輸血療法委員会 代表世話人 末岡 榮三朗  
佐賀県健康福祉部 医療統括監 野田 広

14:40

## 【議題1】

座長 佐賀大学医学部附属病院 臨床検査技師 山田 尚友  
コロナ禍における血液製剤の使用状況に係るアンケート結果報告  
佐賀県赤十字血液センター 学術情報・供給課長 一ノ瀬 知早子

15:00～

## 【議題2】

座長 佐賀大学医学部附属病院 臨床検査技師 山田 尚友  
『当院の輸血療法に関する活動について』  
講師 独立行政法人国立病院機構 佐賀病院 研究検査科 横井 伸子 先生

15:15～

## 【議題3】

座長 佐賀大学医学部附属病院 臨床検査技師 山田 尚友  
『コロナ禍における血液確保対策について』  
講師 日本赤十字社九州ブロック血液センター 事業部長 千葉 泰之 先生

15:50～ 休憩

16:00～

## 【講演1】

座長 佐賀県赤十字血液センター 所長 松山 博之  
『鹿児島県における新型コロナウイルス禍における輸血医療に対する取り組み』  
講師 鹿児島大学病院 輸血・細胞治療部 部長 古川 良尚 先生

16:45～

## 【講演2】

座長 唐津赤十字病院 第3内科部長 宮樹 りか  
『不規則抗体の臨床：最新の知見』  
講師 公立大学法人福島県立医科大学 総括副学長 大戸 斉 先生

= 第14回 佐賀県合同輸血療法委員会 =

日時：令和6年1月20日（土） 14：30～17：30

会場：佐賀大学医学部臨床講堂

14:30～（10分）

## 【開会・開会挨拶】

佐賀県合同輸血療法委員会 代表世話人 末岡 榮三朗  
佐賀県健康福祉部 医療統括監 野田 広

14:40～（10分）

## 【議題1】

座長 公益財団法人 佐賀県看護協会 常務理事 前川 律子  
アンケート結果報告  
佐賀県赤十字血液センター 学術情報・供給課長 一ノ瀬 知早子

14:50～（15分）

## 【議題2】

座長 唐津赤十字病院 院長 宮原 正晴  
『佐賀県赤十字血液センターの歩み』  
講師 佐賀県赤十字血液センター 所長 松山博之  
15:05～（35分）

## 【講演1】

座長 佐賀県医療センター 好生館 輸血部長 飯野 忠史  
『熊本県合同輸血療法委員会の活動について』  
講師 熊本県赤十字血液センター 学術情報・供給課長 續 隆文 先生

15:40～休憩（15分）

15:55～（40分）

## 【講演2】

座長 一般社団法人 佐賀県臨床検査技師会 会長 平野 敬之  
『再生医療等製品における輸血部のあり方について』  
講師 兵庫医科大学病院 輸血・細胞治療センター 課長 池本 純子 先生

16：35～（40分）

## 【講演3】

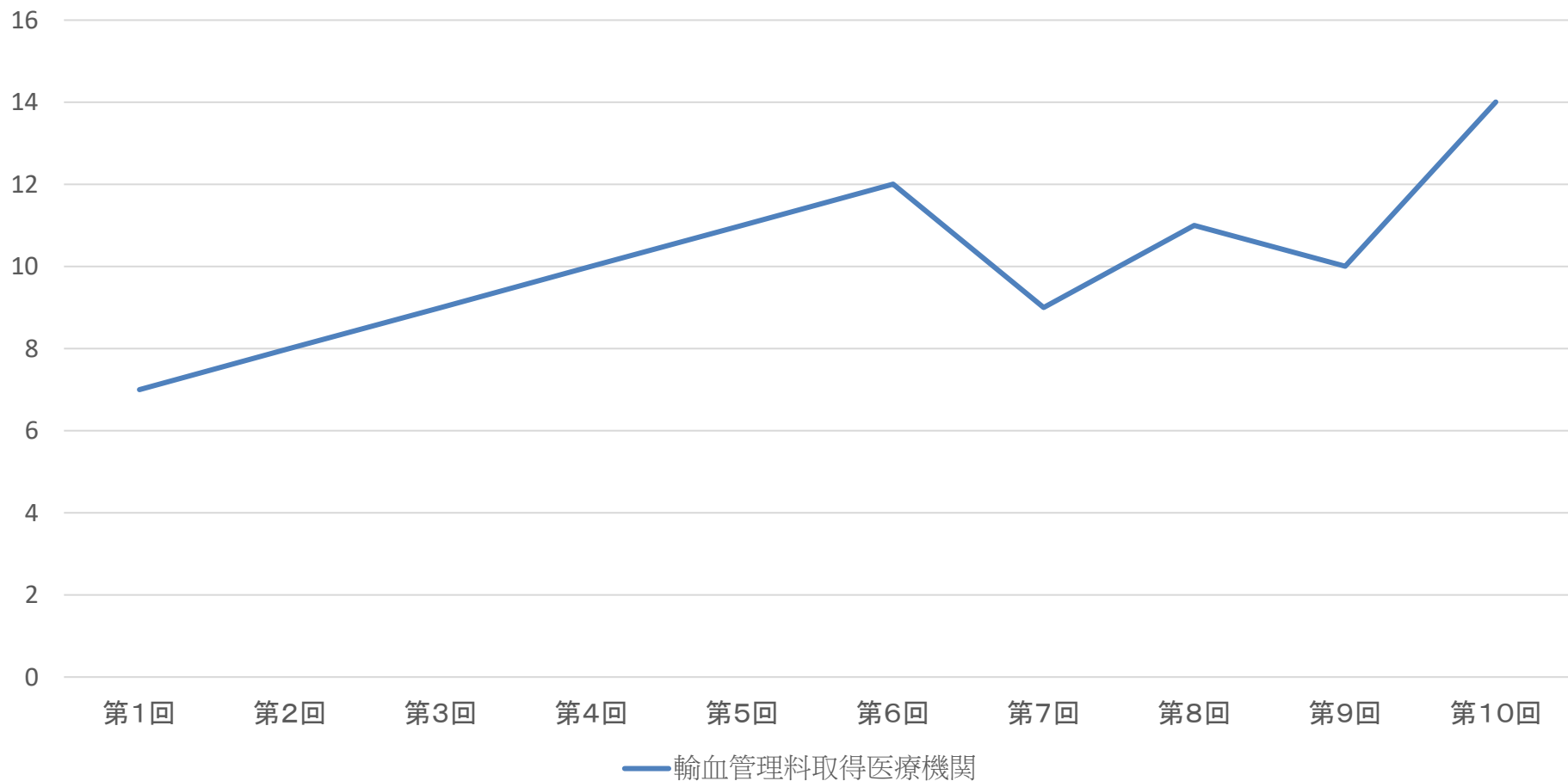
座長 佐賀大学医学部附属病院 検査部長・輸血部長 末岡 榮三朗  
『在宅医療の現状とこれから～コンパッションに支えられたまちづくり～』  
講師 ひらまつ在宅クリニック 院長 鐘ヶ江 寿美子 先生

17：15～（15分）

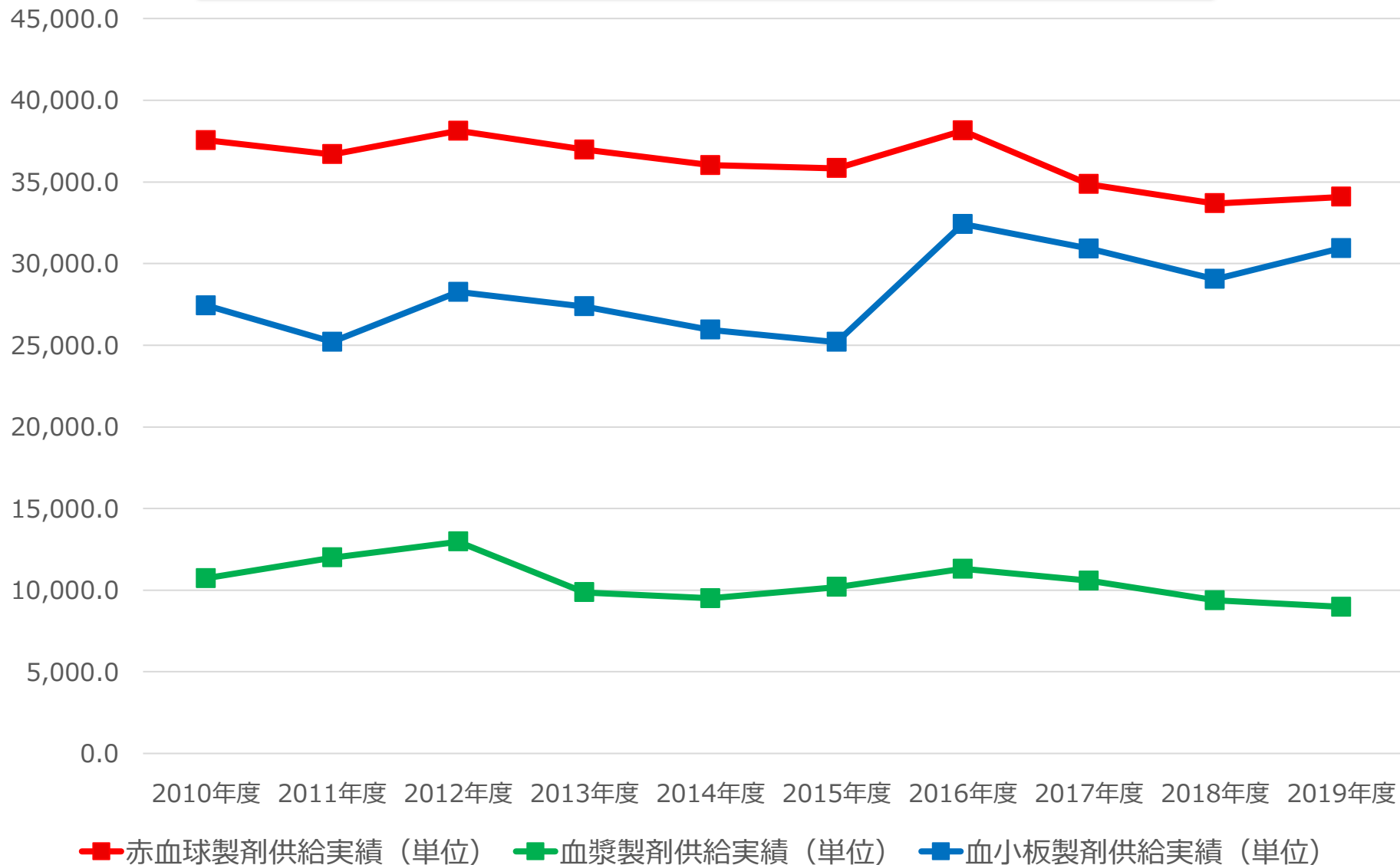
質疑応答 挨拶

# 輸血管理料取得医療機関の推移

## 輸血管理料取得医療機関



## 佐賀県内輸血用血液製剤供給実績(単位)



# 血液疾患医療機関連携

関連病院

連携病院





# 安全な輸血医療のための サポート体制の構築

- 診療体制の整備
- システムやツールの構築
- 技術の共有や人材育成

# 厚生労働省「血液製剤使用適正化調査研究事業」

- 佐賀県内のすべての輸血医療実施施設に輸血療法委員会を設置させるための研究
- 院内輸血療法委員会設置推進用パッケージを用いた包括的輸血療法支持体制の整備
- 合同輸血療法委員会による輸血療法支援ネットワーク体制の構築
- パンデミック感染症や災害時におけるへき地や離島での輸血医療の継続のため体制整備
- 佐賀県における在宅および小規模医療機関における輸血事情調査と「モザイク ICT 連携」による輸血実施体制支援

具体的取り組みとして、

- (1) 院内輸血療法委員会設置推進用パッケージの作成と配布
  - (2) 小規模施設の支援対策として輸血関連検査の教育用DVDの作成
- など、佐賀県内の輸血医療上の技術や知識の均てん化、輸血後副反応の管理などの支援体制の整備を行ってきた。

全国的に小規模施設における輸血療法の実施は輸血管理体制も確立しておらず、安全面や血液製剤の適正使用の面からも多くの問題があります。在宅医療の推進など、今後の医療体制の変化を考えると輸血関連検査、輸血医療上の技術や知識の均てん化、輸血後副作用の管理などの支援体制が急務であると考えられます。

そのような状況を踏まえ、今年度は小規模病院における輸血医療をより安全かつガイドラインに準じた実施を行うためにこのアニメーションを制作しました。

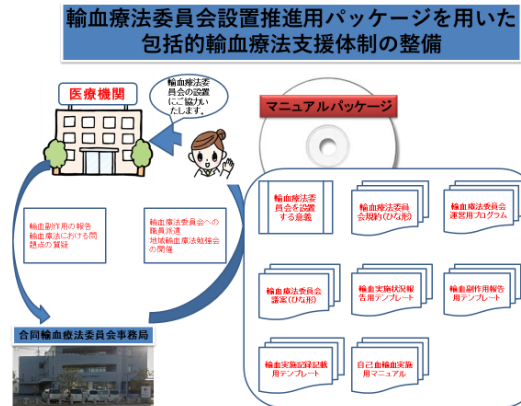
**輸血検査教育 アニメーション**

2017年度

佐賀大学

DVD 本編22分 内訳1巻 収録1巻 STEREO COLOR

佐賀大学



輸血検査教育用DVDの作成

はじめに

全国的に小規模施設における輸血療法の実施は、輸血管理体制も確立しておらず、安全面や血液製剤の適正使用の面からも多くの問題があります。在宅医療の推進など、今後の医療体制の変化を考えると、輸血関連検査、輸血医療上の技術や知識の均てん化、輸血後副作用の管理などの支援体制が急務であると考えられます。

そのような状況を踏まえ、今年度は小規模病院における輸血検査をより安全かつガイドラインに準じた実施を行うために、支援ツールを整備することを企画しました。

収録内容

1. 血液型検査
2. 交差適合試験
3. 輸血検査講義

輸血検査教育用DVD

2017年度

アナフィラキシー

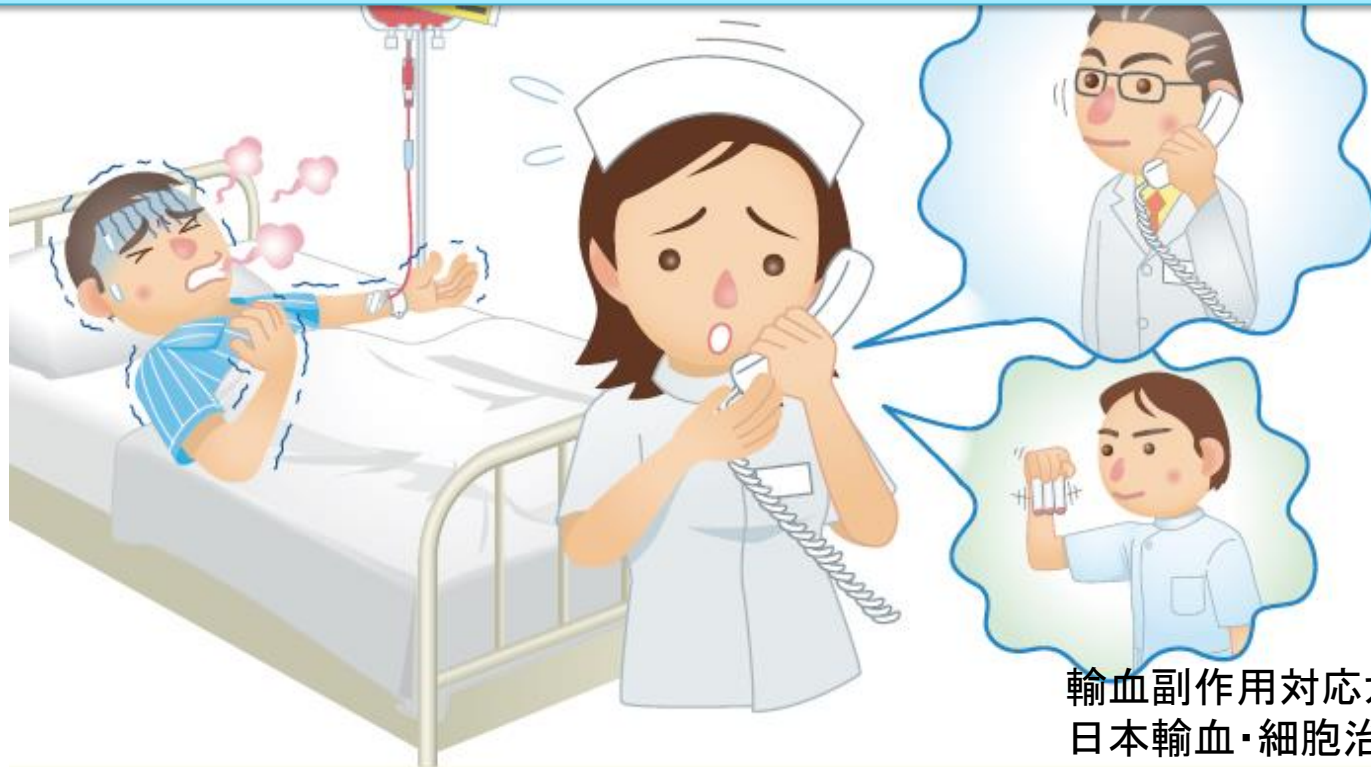
全身に発疹 / 呼吸困難



細菌感染症

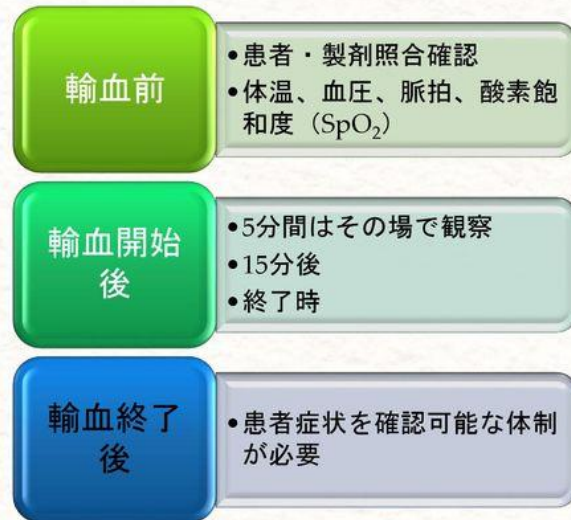


輸血が完全に安全であれば  
輸血を制限する理由はない。  
*Howard L. Corwin, Chest 1999*



# 安全かつ適正な輸血のためには 必要性に駆られて安全対策を軽んじることは許されない

## 輸血実施手順と患者観察



# 小規模病院の輸血療法支援プログラム概要



# 輸血療法委員会設置推進用パッケージを用いた 包括的輸血療法支援体制の整備

医療機関



輸血療法委員会  
の設置  
にご協力い  
たします。



マニュアルパッケージ

輸血療法委  
員会を設置  
する意義

輸血療法委員  
会規約(ひな形)

輸血療法委員会  
運営プログラム

輸血副作用の報告  
輸血療法における問  
題点の質疑

輸血療法委員会への  
職員派遣  
地域輸血療法勉強会  
の開催

輸血療法委員会  
議案(ひな形)

輸血実施状況報  
告用テンプレート

輸血副作用報告  
用テンプレート

合同輸血療法委員会事務局



輸血実施記録記載  
用テンプレート

自己血輸血実施  
用マニュアル

# 輸血検査教育用DVDの作成

## はじめに

全国的に、小規模施設における輸血療法の実施は、輸血管理体制も確立しておらず、安全面や血液製剤の適正使用の面からも問題が多い。

在宅医療の推進など、今後の医療体制の変化を考えると、輸血関連検査、輸血医療上の技術や知識の均てん化、輸血後副作用の管理などの支援体制が急務であると考えられる。

そのような状況を踏まえ、今年度は小規模病院における輸血医療をより安全かつ、ガイドラインに準じた実施を行うために、支援ツールを整備することを企画しました。

## 収録内容

- 1.血液型検査
- 2.交差適合試験
- 3.輸血検査講義

輸血検査教育ビデオ

2016年度製作版

【判定】

凝集塊の大きさ、数、背景の色調  
(赤血球の濁りがあるか)を観察

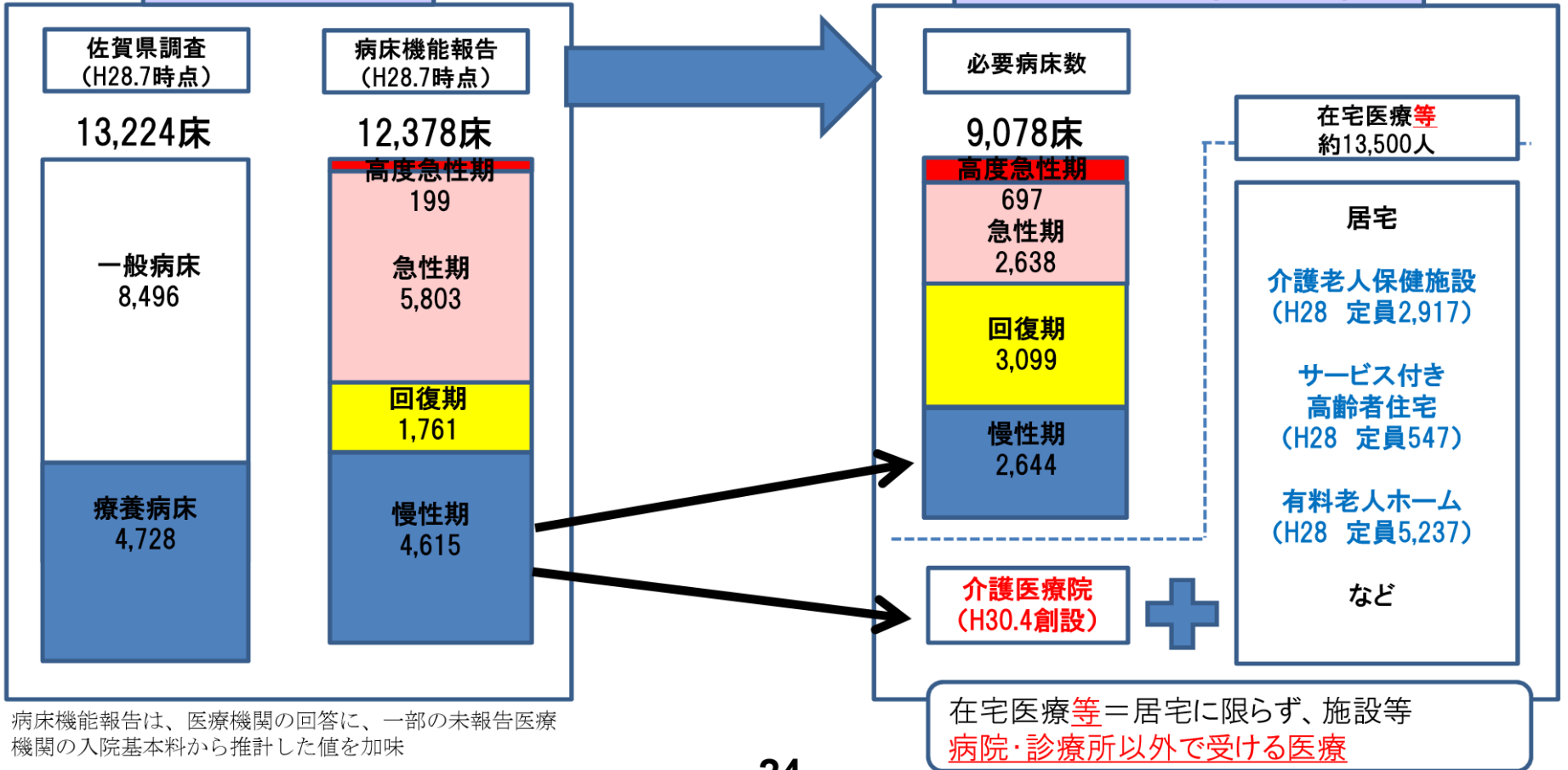
# 在宅および小規模医療機関における 輸血医療の支援体制の構築



# 2025年問題への対応 —佐賀県の場合—

現状：平成28年

将来：平成37年(2025年)



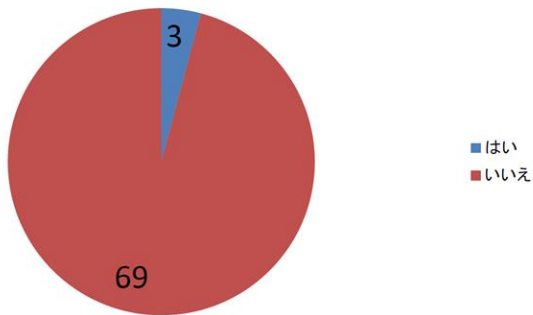
# 小規模施設における輸血医療の現状を知る

2018年度  
佐賀県内の輸血療法の適正化促進  
に関するアンケート調査集計報告

2018年11月10日(土)  
佐賀県合同輸血療法委員会

1

Q28.訪問診療などで、在宅での輸血を実施  
したことがありますか

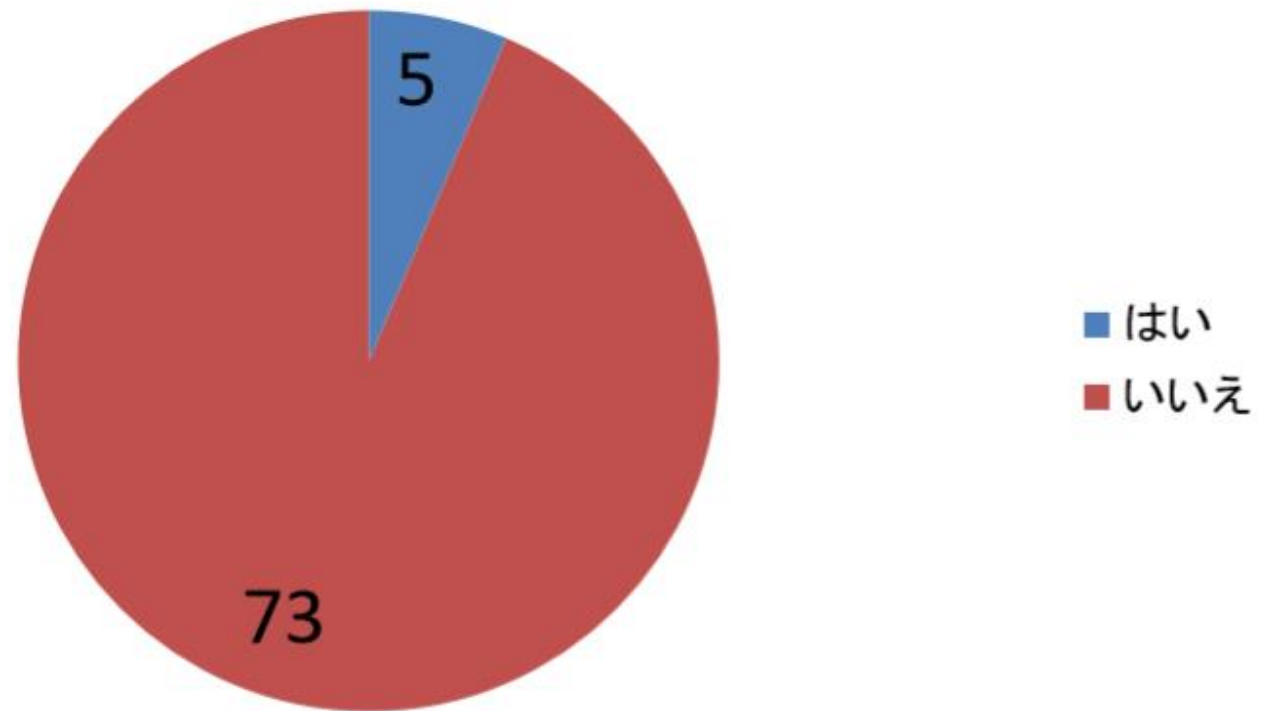


(n=72)

50



## Q28.訪問診療などで、在宅での輸血を実施したことがありますか



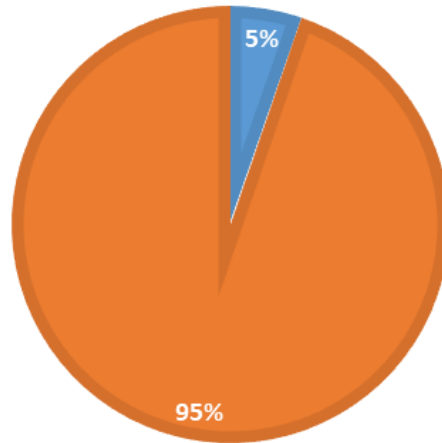
(n=79)

# 緩和医療および在宅医療における輸血療法について

## 在宅輸血の実施

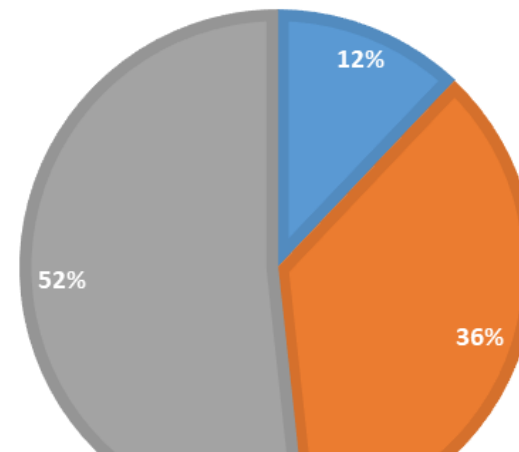
2022年度アンケート調査より

■はい ■いいえ



在宅赤血球輸血ガイド（日本輸血治療細胞学会誌）をご存じですか

■参照したことがある ■あることは知っているが見たことはない ■知らなかった

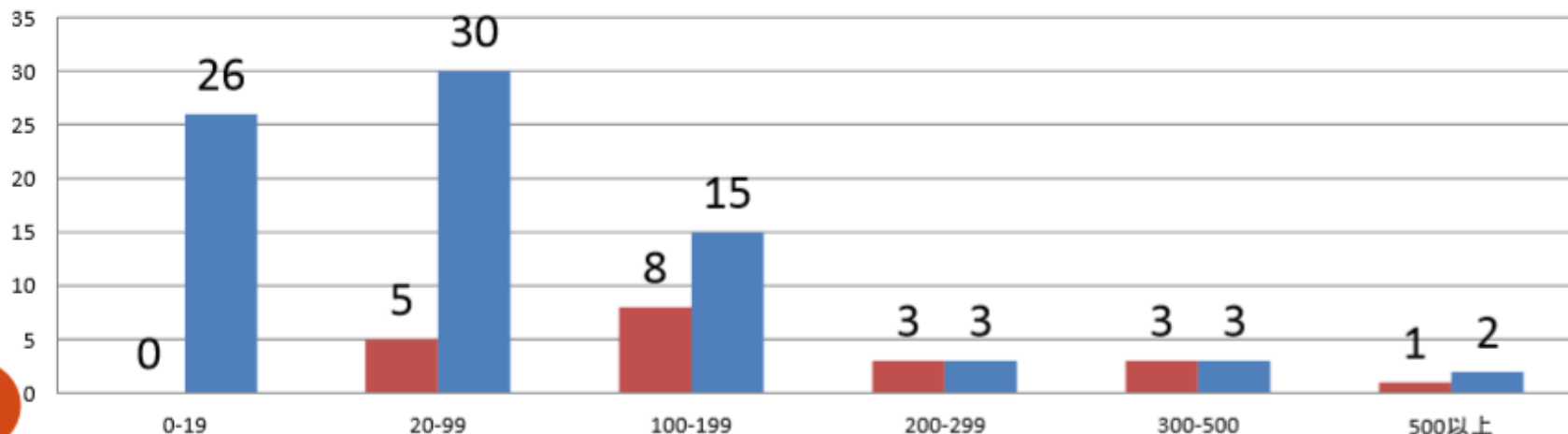


参照したことがあるは12%に過ぎない

# アンケート実施医療施設について

- 1. アンケート対象医療施設 : 2017年度及び2018年度に輸血用血液製剤を供給した  
県内150医療施設
- 2. アンケート回答医療施設 : 88医療施設(58.6%)
- 3. アンケート集計対象医療施設 : 79医療施設(52.6%)

< 県内一般病床数別施設数及びDPC導入施設数 >



令和4年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業←  
佐賀県における在宅および小規模医療機関に  
おける輸血事情調査と「モザイク ICT 連携」に  
よる輸血実施体制支援←



佐賀県合同輸血療法委員会←

令和5年3月31日←

## 【背景と活動の目的】

1. COVID-19感染症拡大は、これまで当たり前であった**医療機関間の連携を遮断**し、**医療情報の共有を困難**にした。特に輸血医療のような専門性の高い医療活動が強く影響を受けることになった。
2. **小規模医療機関や在宅における輸血医療**の実施体制については、拠点病院と小規模医療機関あるいは在宅医療との密な連携が必須であるが、実際は**施設ごとの方針**にゆだねられているのが実情である。
  1. 輸血製剤使用状況調査と小規模医療機関における拠点病院との医療連携状況の**実態把握**
  2. 佐賀大学病院における**ピカピカリンク**の利用状況と輸血実施患者におけるピカピカリンクによる医療連携状況について調査
  3. 輸血医療連携における**ピカピカリンクの利活用推進**

# コロナ禍における血液製剤の使用状況 (アンケート調査結果より)

アンケート調査依頼医療機関：138施設

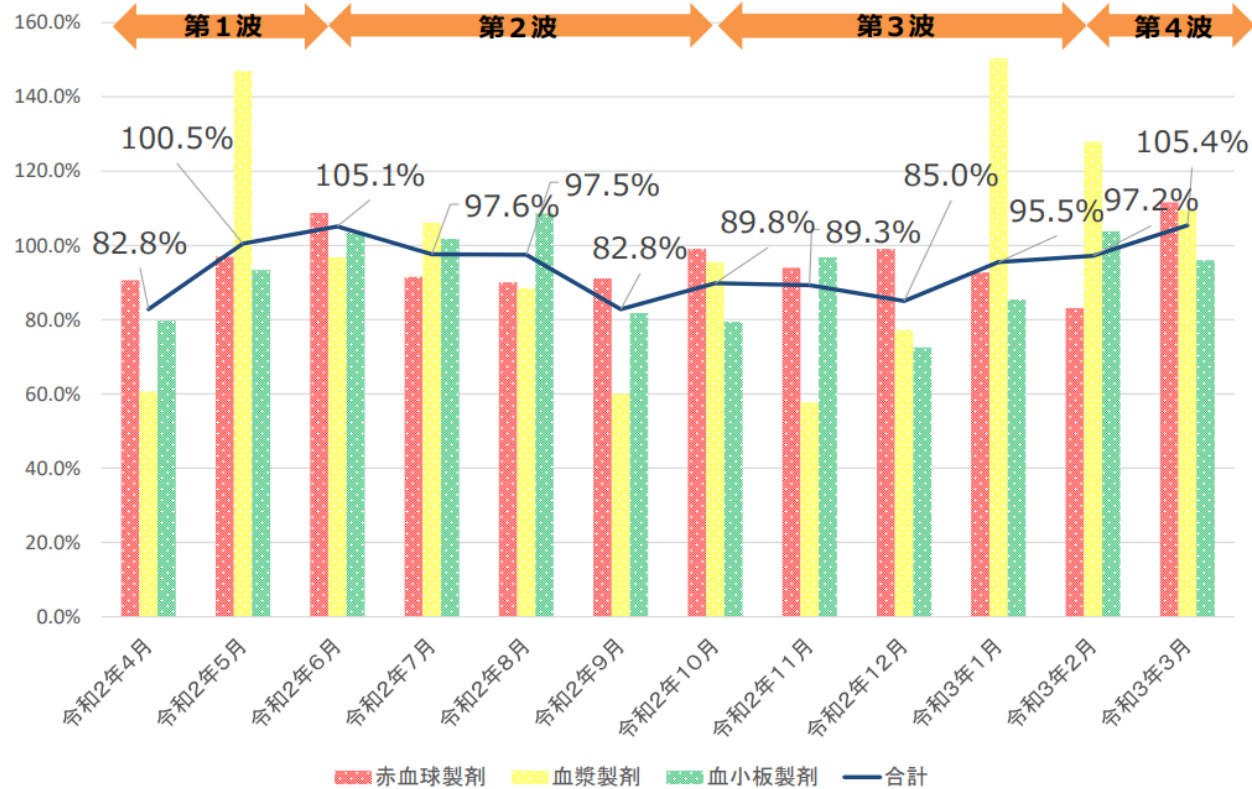
アンケート回答医療機関：67施設

回答率：48.5%

佐賀県赤十字血液センター



令和元年度・令和2年度血液製剤供給状況(佐賀県内医療機関)比較





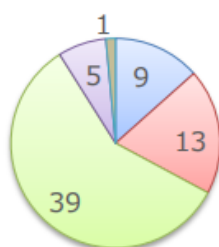
# 【輸血用血液製剤使用量】 n = 67

○令和2年4～5月【第1波】

○令和2年6～12月【第2波】

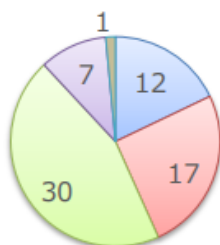
○令和3年1～3月【第3波】

赤血球製剤



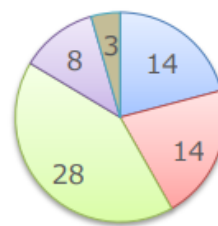
■ 増加 ■ 減少 ■ 変わらない  
■ 該当なし ■ 未回答

赤血球製剤

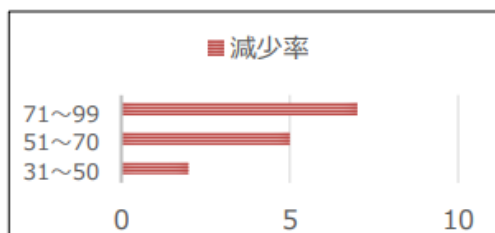
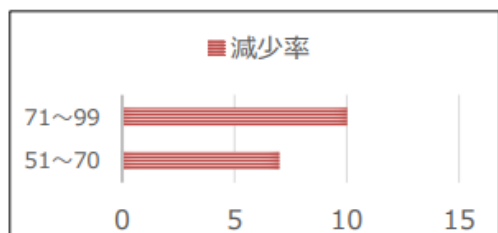
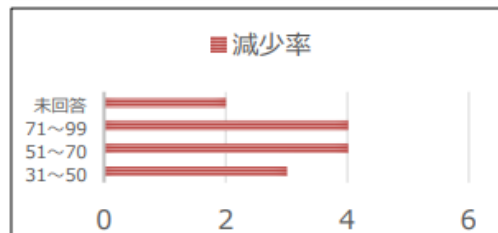
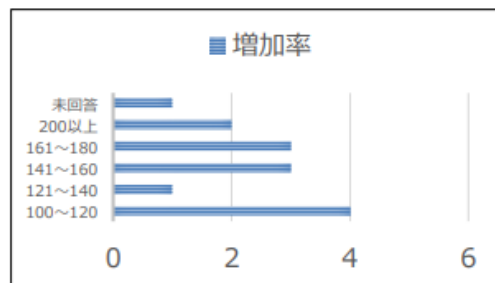
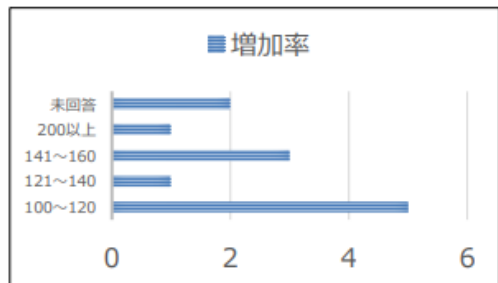
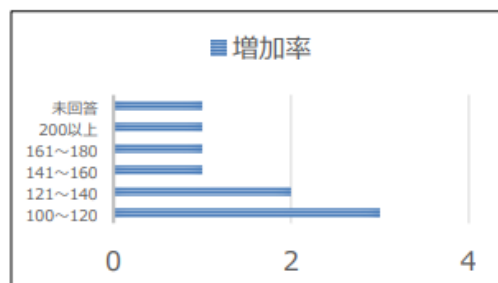


■ 増加 ■ 減少 ■ 変わらない  
■ 該当なし ■ 未回答

赤血球製剤

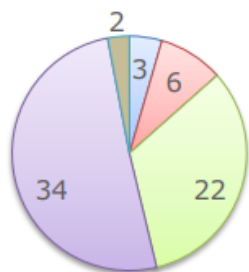


■ 増加 ■ 減少 ■ 変わらない  
■ 該当なし ■ 未回答



○令和2年4～5月【第1波】

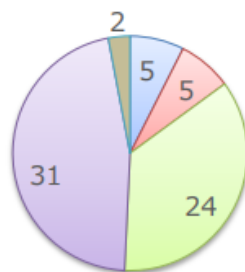
血小板製剤



■ 増加 ■ 減少 ■ 変わらない  
■ 該当なし ■ 未回答

○令和2年6～12月【第2波】

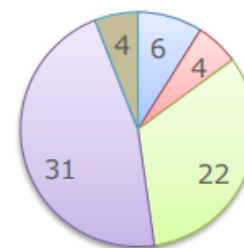
血小板製剤



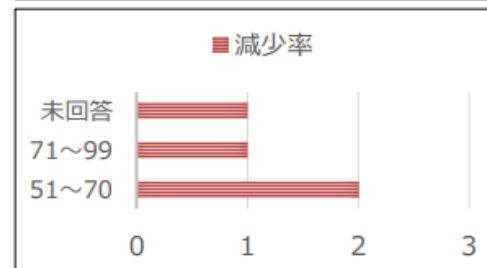
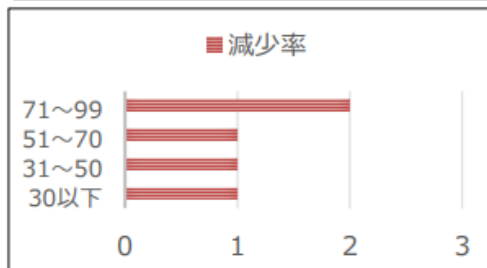
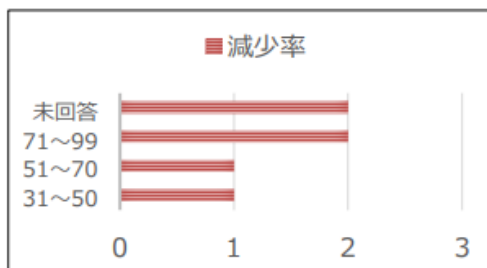
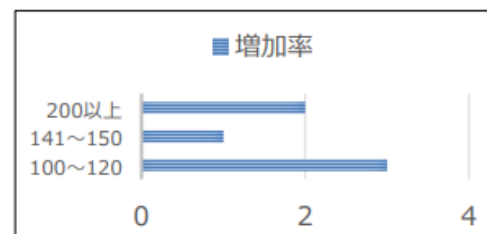
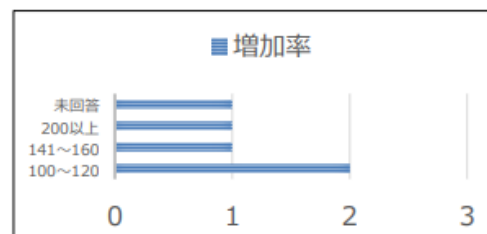
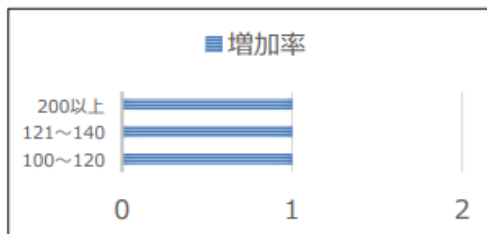
■ 増加 ■ 減少 ■ 変わらない  
■ 該当なし ■ 未回答

○令和3年1～3月【第3波】

血小板製剤



■ 増加 ■ 減少 ■ 変わらない  
■ 該当なし ■ 未回答



## コロナ禍における輸血医療において、困った点や工夫した業務方法等について

### 【困った点】

- ・ 新型コロナウイルス患者の使用済み輸血用血液製剤バッグの回収
- ・ 手術準備のため貯血の自己血が手術延期に伴い、廃棄となる事例が発生した。
- ・ RBCの期限切れ廃棄が例年より少し多い印象があった。通年A型の期限切れ廃棄はあまりないが発生した。
- ・ 血小板の発注に対し納品まで時間を要することが多かった。
- ・ 手術件数減少のため、血液製剤の手配・調整に苦慮した。
- ・ 輸血用血液製剤の受け渡しについて、困った。

### 【工夫した業務】

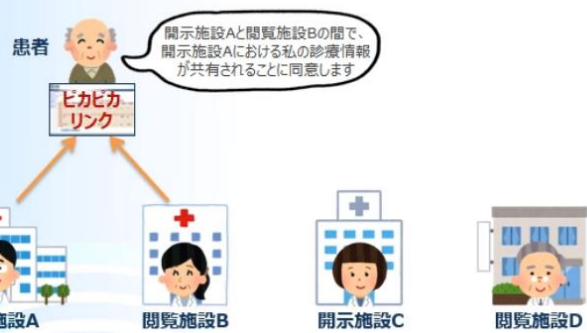
- ・ 規定在庫数を変動させ、必要時は戻すなど状況に合わせた運用を行った。
- ・ 血小板は事前発注や確保を行うため、使用頻度の高い血液内科医師に輸血の可能性も含めたオーダーを行っていただくように依頼した。（但し、確保については臨床も製剤管理する側も煩雑に感じた。）
- ・ 院内の輸血療法委員会の開催について、院内でオンライン開催が出来る環境が整っていなかったため、書面開催にて開催している

# ピカピカリンクとは



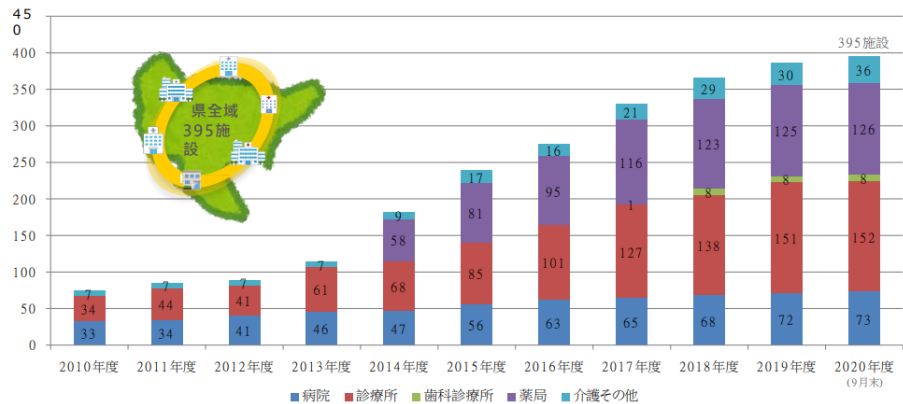
- 「ピカピカリンク」は、佐賀県診療情報地域連携システムの愛称です（ID Link の仕組みを採用しています）
- 患者の個別の同意の下、ピカピカリンク参加施設間で患者の診療情報を共有できる仕組みです
- 参加施設は「開示施設\*」と「閲覧施設\*\*」に区分されます

# 佐賀県診療情報地域連携システム（ピカピカリンク）を用いた輸血関連情報の連携



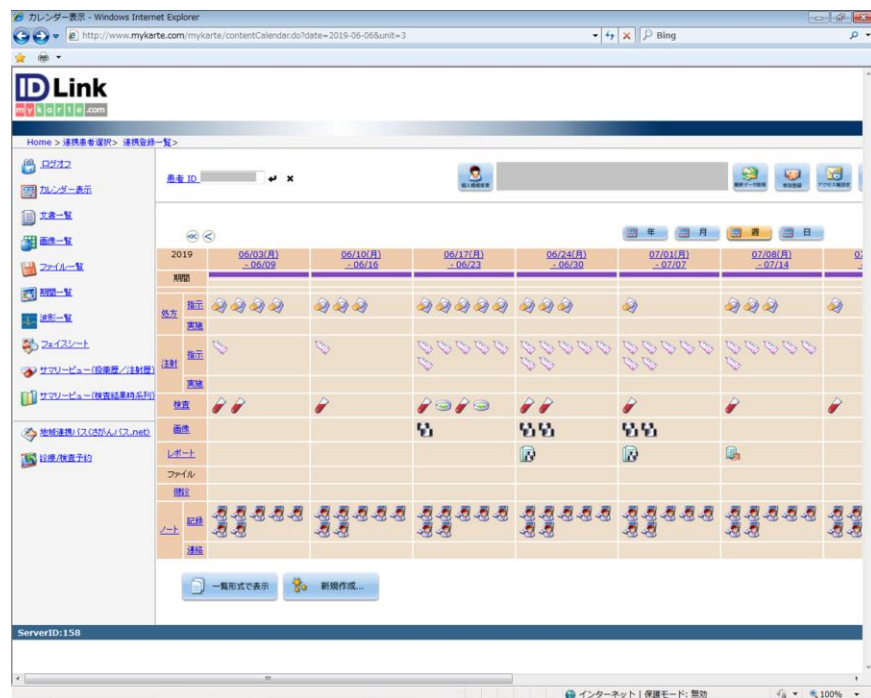
## ピカピカリンクの参加施設の推移

- 県全域を対象に2010年度に運用開始
- 2023年5月現在 開示施設15施設 閲覧施設404
- 参加率は、病院 68.2%、診療所 25.4%、薬局23.9%等



# 佐賀県診療情報地域連携システム（ピカピカリンク） による医療情報の連携

ユニークID a9b8c7d6e5



- 佐賀県診療情報地域連携システム協議会への協力依頼
- ピカピカリンク広報および活用推進のための動画配布
- 輸血実施医療機関へのピカピカリンク活用推進依頼



Home > 連携患者選択 > 連携登録一覧 >

- ログアウト
- カレンダー表示
- 文書一覧
- 画像一覧
- ファイル一覧
- 期間一覧
- 波形一覧
- フェイスシート
- サマリービュー (投薬歴/注射歴)
- サマリービュー (検査結果時)
- 地域連携パスがらみパス
- 診療/検査予約

患者 ID

【2019/07/02】  
 報告書区分：輸血  
 検体：血清  
 依頼元：血液内科 4階西病棟依頼医：近藤 誠司

検査項目名称	結果値 (単位表示ON)
ABO式血液型	A
Rh式血液型	+
不規則性抗体スクリーニング	(-)

2019	06/03(月) - 06/09	06/24(月) - 06/30	07/01(月) - 07/07	07/08(月) - 07/14	07/15(月) - 07/21
期間					
処方	指示 実施				
注射					
検査					
看護					

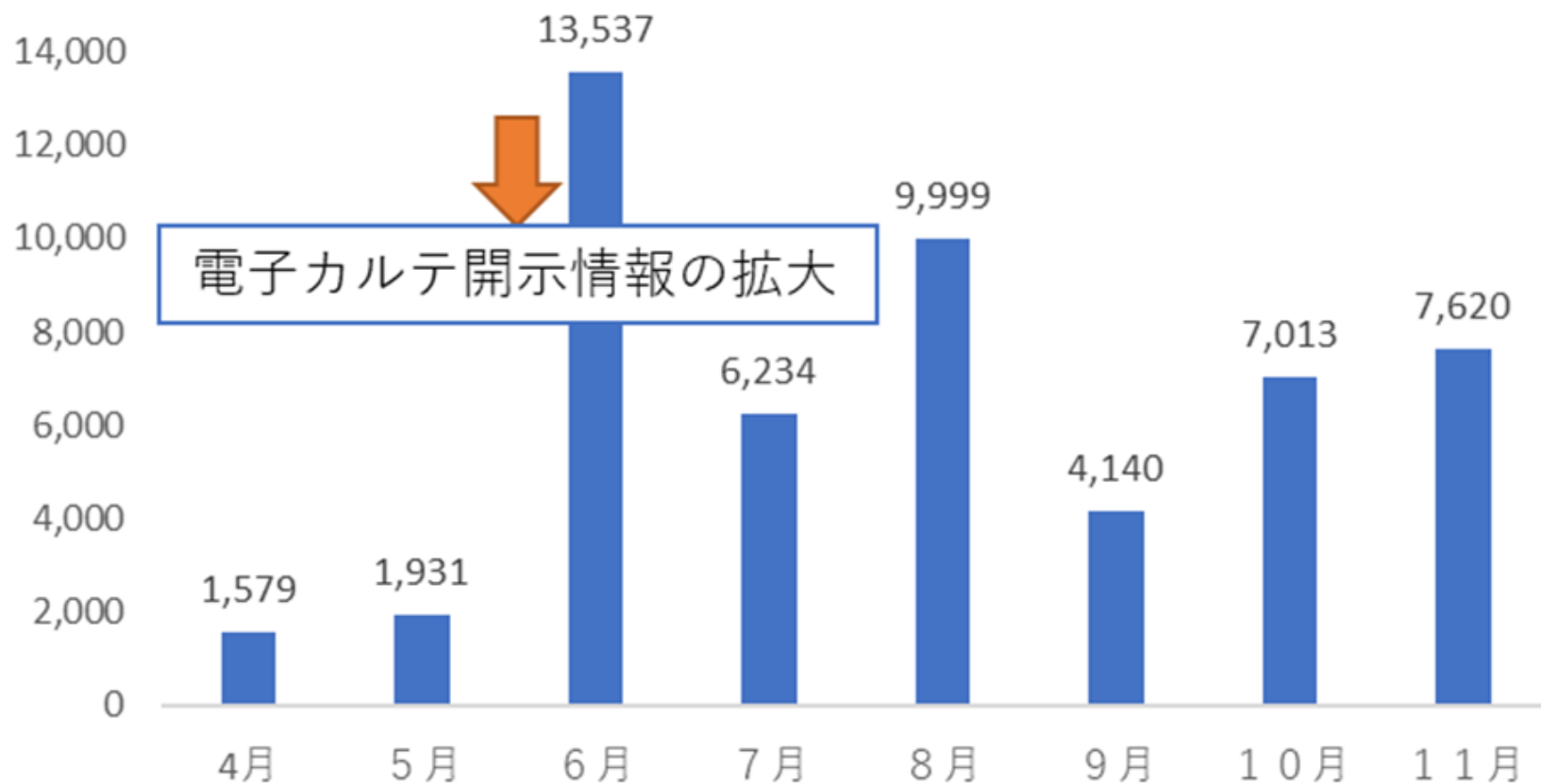
高澤 梨乃(看護師) - (看護部)

2019/07/02 17:37 ND2 非効果的の自己健康管理

S	体拭いて。
O	体温36.7度 倦怠感あり 酸素2Lカニューラ投与中 酸素飽和度98% Mに移動する際は大気で89%まで低下 7月2日 RBC:2.05 近藤Drにて赤血球濃厚液LR2単位 16:18投与開始 5分後・15分後副作用症状なし、17:25投与終了 内服自己管理中。朝食後の内服忘れあり、主治医に確認後、昼食後に内服される 病室内マスク着用あり 口腔ケアは促すと実施される シャワー浴促すが清拭希望されたため看護師介助にて清拭実施
A	内服自己管理中であるが倦怠感持続しており、看護師の促しがないと内服されないため看護師管理に変更する必要あり 輸血開始後副作用症状なく終了
P	本人に説明し内服薬を看護師管理とした



# 佐賀大学病院電子カルテへのアクセス件数



2022年





# ID-LINKの課題

ユニークID a9b8c7d6e5



リアルタイム連携には対応できない。

専門性の高い領域における連携についてはカスタマイズが必要  
(莫大な費用を必要とする)

様々な資材を搭載しようとする则表示内容が煩雑になり、アクセス性が障害される。

# 輸血同意書（ひな型）の配布と共有化

忘れずに！！

使用する輸血量  単位

\*手術目的で輸血の予定がない場合は、最低単位の「2」単位を入力してください。

診療科   
担当医

血液製剤（赤血球、新鮮凍結血漿、血小板）の単位数を必ず入力してください

捺印を忘れずをお願いします。

- ★ここで入力すれば、同意書内に印字されます。
- ★同意書（病院控え・患者控え）の後に、続けて説明文が出力されます。
- ★血漿分画製剤のみ使用される場合は、使用する輸血量の単位数を入力する必要はありません。

(ID: 氏名: 生年月日: 性別: )



## 特定生物由来製品(輸血・血漿分画製剤)使用同意書

説明日: \_\_\_\_\_  
診療科: \_\_\_\_\_  
担当医: \_\_\_\_\_ 印

このたび特定生物由来製品【輸血(血液製剤)・血漿分画製剤】の使用にあたり別紙説明書を用い、下記の事項を説明いたしました。

- 使用する輸血(血液製剤: 赤血球、新鮮凍結血漿、血小板)や血漿分画製剤について  
おおよその血液製剤輸血量(予定) ( ) 単位
- 輸血(血液製剤: 赤血球、新鮮凍結血漿、血小板)や血漿分画製剤が必要となる理由について
- 使用に伴う危険性と使用しなかった場合の危険性について
- 医薬品副作用被害救済制度・生物由来製品感染等被害救済制度について
- 投与後に製品における未知の病原体の存在が証明した場合の結果の通知と検体保管について
- 自己血輸血を行う場合には以下の事項について
  - 自己血を採取・輸血する場合の合併症について
  - 調整・保管時のバッグの破損、汚染により自己血が使用できない場合があること
  - 自己血が十分な不足する場合は同種血を使用する場合がありますこと
  - 自己血を使用しない場合は保管期間が過ぎた場合は廃棄すること
- 投与情報の保管と利用について
- 緊急時の異型適合輸血について
- その他・追加説明や質問など[ ]

追加説明や質問などは、直接入力してください。

輸血量は上段の枠内(セル「C2」)に入力してください。

〇〇病院長 殿

私はこのたび上記の事項について説明を受け十分に理解しました。治療上必要な場合には特定生物由来製品(輸血・血漿分画製剤)の投与を受けることに同意いたします。また自己血輸血を行う場合でも予測以上の出血など必要な場合には同種血輸血を受けることに同意いたします。

記載日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

患者氏名 \_\_\_\_\_ 印

(感筆サインまたは記名捺印)  
\*自筆なら押印不要

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日生

患者住所 \_\_\_\_\_

保護者  
または代理人 \_\_\_\_\_ 印

(感筆サインまたは記名捺印)  
\*自筆なら押印不要

\*この欄は患者が未成年者等の場合のみ記入・捺印お願いいたします。



# 輸血記録の標準化

輸血実施時

#

S:

O: 投与経路  末梢  中心静脈

時  分  を  ml/h で投与開始

T  °C P  回/分 BP  /  mmHg RR  回/分 SpO2  %

前投薬

5分後  15分後  終了時  副作用出現時の対応

T  °C P  回/分 BP  /  mmHg  
RR  回/分 SpO2  %

副作用はなく  
 時  分 から  ml/h へ投与量変更

- 発熱あり
- 悪寒・戦りつあり
- 熱感・ほてりあり
- 掻痒感あり
- 呼吸困難あり
- 嘔気・嘔吐あり
- 胸痛・腰痛・腰背部痛あり
- 発赤・顔面紅潮(膨隆新を伴わない)あり
- 発疹・蕁麻疹(膨隆新を伴う)あり
- 頭痛・頭重感あり
- 血圧低下あり
- 血圧上昇あり
- 動悸・頻脈あり
- 血管痛あり
- 意識障害あり
- 褐色尿あり

A:  副作用症状なく経過している  
 バイタルサインの変動はないが副作用の症状あり  
 輸血中の副作用症状なく終了  
 副作用症状あり

内容を自由編集可能なテキストとしてドキュメントに埋め込む

カルテに展開

P:  投与開始5分間はベッドサイドにて観察を行った  
 バイタルサインのチェック、副作用症状の有無を観察した  
 悪感や掻痒感等の自覚症状出現時には速やかに知らせるよう説明をした  
 輸血による重度な副作用症状出現のため以後時系列記録に変更する

閉じる

クリア

# ガイドラインや指針アクセシビリティの向上

在宅赤血球輸血ガイド

北澤淳一<sup>1,14)</sup>、玉井佳子<sup>2,14)</sup>、藤田浩<sup>3,14)</sup>、牧野茂義<sup>4,14)</sup>、  
正木康史<sup>5,14)</sup>、大本英次郎<sup>6,14)</sup>、小田秀隆<sup>7,14)</sup>、中村 弘<sup>8,14)</sup>、  
二木敏彦<sup>9,14)</sup>、黒田 優<sup>10,14)</sup>、立花直樹<sup>11,14)</sup>、  
松本雅則<sup>12,15)</sup>、松下正<sup>13,15)</sup>

青森県立中央病院臨床検査部<sup>1)</sup>、弘前大学医学部附属病院輸血部<sup>2)</sup>、東京都立墨東病院輸血科<sup>3)</sup>、虎の門病院輸血部<sup>4)</sup>、  
金沢医科大学血液免疫内科学<sup>5)</sup>、山形県立中央病院血液内科<sup>6)</sup>、福岡県赤十字血液センター<sup>7)</sup>、山梨県赤十字血液センター<sup>8)</sup>、  
金沢赤十字病院検査部<sup>9)</sup>、山形県赤十字血液センター<sup>10)</sup>、青森県立中央病院<sup>11)</sup>、奈良県立医科大学医学部附属病院輸血部<sup>12)</sup>、名古屋大学医学部附属病院臨床検査部・輸血部<sup>13)</sup>、  
日本輸血・細胞治療学会ガイドライン委員会小規模医療機関（在宅を含む）輸血ガイドライン策定タスクフォース<sup>14)</sup>、日本輸血・細胞治療学会ガイドライン委員会<sup>15)</sup>

「血液製剤の使用指針」

平成31年3月

厚生労働省医薬・生活衛生局

輸血の看護

佐賀大学医学部附属病院

看護部・輸血部



制作  
佐賀大学

輸血検査教育

アニメーション

## これまでの合同輸血療法委員会の活動から見えてきたこと

- 仕組み作りや輸血医療を支えるコンテンツの配置は進んだが、、、
- メジャー・コミュニケーションとシェア・コミュニケーション
- リアルタイム連携の手段と仕組みづくりの課題 (SNSやChat AIの活用)
- 輸血関連情報を患者さん自身に提供する仕組み; Personal health recordの観点から



どんなにICTやAI技術が進歩しても、  
大切なのは人と人の密なコミュニケーション

※シェア・コミュニケーション:多様な人によって提供される様々な情報

# 適正かつ安全な輸血の実践のために

## 臨床現場と輸血管理部門の意識のすり合わせ

多職種間の連携とコミュニケーションづくり

施設の事情にあったガイドラインとマニュアル整備

きちんとこれらが機能することを担保する

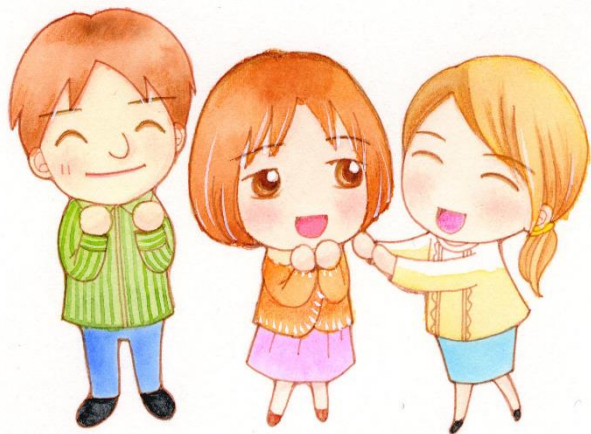
輸血療法委員会

対象診療科の把握と日常連携

特殊輸血療法対応訓練  
(シミュレーション)

# ご静聴ありがとうございました。

佐賀県合同輸血療法委員会  
佐賀大学医学部附属病院輸血部スタッフ



佐賀大学医学部附属病院  
電話 0952-31-6511